

〔研究ノート〕

## A県内の大学生・専門学校生の喫煙の実態

漆坂 真弓<sup>1)7)</sup> 木村 紀美<sup>1)</sup> 齋藤 昭<sup>2)</sup> 吉田 光子<sup>3)</sup> 一戸 佳代子<sup>4)</sup>  
三浦 有希<sup>5)</sup> 吉岡 利忠<sup>6)8)</sup>

### The Current Situation of Cigarette Smoking by University/Vocational School Students in Prefecture A

Mayumi Urushizaka<sup>1) 7)</sup> Kimi Kimura<sup>1)</sup> Akira Saito<sup>2)</sup> Mitsuko Yoshida<sup>3)</sup>  
Kayoko Ichinohe<sup>4)</sup> Yuki Miura<sup>5)</sup> Toshitada Yoshioka<sup>6) 8)</sup>

#### Abstract

The purpose of this study was to grasp the current situation of smoking by university/vocational school students in prefecture A and to advance efforts to prevent smoking. The following results were found: (1) The smoking rate of female students were slightly higher than the figures from the nationwide survey; (2) 87% of smokers smoked almost every day; (3) Men tended to smoke more cigarettes per day compared to women; (4) Most students who smoked almost every day expressed a desire for effective nonsmoking guidance. Of those who did not express a desire for nonsmoking guidance, students who smoked a lesser number of cigarettes on a less frequent basis tended to think they could quit smoking by themselves, while students who smoked a higher number of cigarettes on a more frequent basis tended to have little desire to quit; (5) One in 8 students who smoke almost every day had started to smoke in grade school, and the earlier they started the more they tended to smoke; (6) Students who were heavy smokers tended to have family members who smoked, and be around cigarette smoking more often; (7) Students who were heavy smokers tended to develop the habit around junior high school age; and (8) Curiosity toward smoking and having friends who smoked tended to be the main causes for people to start smoking.

(J.Aomori Univ. Health Welf. 10 (2) : 175 - 190, 2009)

キーワード：喫煙、喫煙頻度、喫煙本数

Key Words : Smoking, frequency of smoking, number of cigarettes smoked

- 
- 1) 弘前学院大学看護学部  
Faculty of Nursing, Hirosaki Gakuin University
- 2) 弘前学院大学事務長  
Director of official division, Hirosaki Gakuin University
- 3) 弘前学院大学電子危機管理センター  
Electronic equipment management center, Hirosaki Gakuin University
- 4) 弘前学院大学学長秘書  
The president secretaty, Hirosaki Gakuin University
- 5) 弘前学院大学総務課  
The general affairs department, Hirosaki Gakuin University
- 6) 弘前学院大学学長, 社会福祉学部学部長  
The president, Faculty of Social welfare, Hirosaki Gakuin University
- 7) 弘前大学大学院保健学研究科  
Hirosaki University Graduate School of Health Sciences
- 8) 青森県立保健大学名誉教授  
The honorary professor of Aomori University of Health and welfare

## 要旨

本研究の目的は、A県内大学生及び専門学校生の喫煙の実態を把握し、これら学生における喫煙防止対策を推進していくための課題を明らかにすることである。その結果、①女性の喫煙率が全国調査と比較し若干上回っていた。②現在もたばこを吸っている人のおよそ87%はほとんど毎日喫煙をしていた。③1日の喫煙本数は、女性に比べ男性の喫煙本数が多い傾向にあった。④ほとんど毎日喫煙している人ほど効果的な禁煙方法による指導を希望していた。禁煙指導を希望しない人は、喫煙頻度が低く1日の喫煙本数が少ないほど自分でたばこをやめられると考え、喫煙頻度が高く1日の喫煙本数が多いほどたばこをやめる気がないと考えている傾向にあった。⑤ほとんど毎日喫煙している人の8人に一人が学童期からたばこを吸い始め、喫煙本数が多いほど、たばこを吸う時期が早い傾向にあった。⑥喫煙頻度及び1日の喫煙本数が多いほど、家族の喫煙者率が高い傾向にあり、喫煙行動に多く触れる機会にあった。⑦喫煙頻度及び1日の喫煙本数が多いほど、中学校の時期に喫煙が習慣化している傾向にあった。⑧喫煙への好奇心や友人との関係性が喫煙行動につながっている傾向にあった。

## 序論

2000年に第3次国民の健康づくり対策として、生活習慣病や喫煙や飲酒を含む生活習慣の改善などに着目した21世紀の国民健康づくり運動（健康日本21）が開始された。2003年には健康づくりと疾病予防を推進するための法的整備の必要性から健康増進法が施行された。健康増進法25条には受動喫煙の防止がうたわれ、喫煙が及ぼす健康影響についての知識の普及、未成年者の喫煙防止などが課題として取り上げられて、対策が講じられている（厚生統計協会、2007）。

中高生（中学1年～高校3年）の喫煙については、平成8・12・16年度に行われた全国調査によると、男女共に学年が上がると共に喫煙経験率の上昇が認められたが、平成8・12年度に比べ、平成16年度は男女共に喫煙経験率の減少が認められた（WAM NET ホームページ）。しかし、健康日本21でのたばこ対策の目標の一つが、未成年者の喫煙率0%であり、それに比較すると平成16年度中学1年男子の喫煙率13.3%、高校3年男子42.0%、中学1年女子の喫煙率10.4%、高校3年女子27.0%と、目標値には程遠い結果であった。成人については、日本たばこ産業による平成20（2008）年の全国たばこ喫煙者調査では、成人男性の喫煙率は39.5%、成人女性は12.9%で、ピーク時の1960年代に比較すると喫煙率は減少傾向にあった（日本たばこ産業ホームページ；厚生統計協会、2007）。しかしながら、2002年世界

保健機構（World Health Organization;WHO）の報告ではあるが、日本の成人男性の喫煙率は52.8%、成人女性13.4%で、先進国の成人男性の喫煙率36.8%、成人女性23.2%、全世界の成人男性の喫煙率39.4%、成人女性16.0%と比較すると、日本での男性の喫煙率は諸外国と比較し高い傾向にある。（厚生労働省の最新たばこ情報ホームページ）。

A県の小中高等学校の児童生徒の喫煙率について、平成20年5月30日に発表された「公立小・中・高等学校における児童生徒の喫煙・飲酒状況調査結果報告書（速報）」によると、中学1年生男子の喫煙経験者は6.6%、高校3年男子30.8%、中学1年女子の喫煙経験者は4.6%、高校3年女子19.0%と、いずれも学年が上がると喫煙経験者が増える傾向にあった（青森県健康福祉部保健衛生課、2008）。平成17年度公共の場及び職場等の喫煙対策調査での、A県での喫煙防止教育を行っている学校の割合は、小学校67.7%、中学校89.6%、高等学校89.5%と、目標値100%には及んでいない（青森県健康福祉部保健衛生課、2007）。児童生徒の喫煙率が、学年が上がると高くなることや、小学校での喫煙防止教育の取り組みが中学校や高等学校と比べると低いことから、今後更なる喫煙防止教育の取り組みが必要だと考えられる。A県内の成人については、平成13年度及び17年度の調査結果では、成人男性の喫煙率が平成13年度51.3%から17年度は39.4%に、成人女性では11.6%から8.2%と、男女共に減少していた（青森県健康福祉部保健衛生課、2007）。A県の成人の喫煙率の目標値は、2011年までに男性25%以下、女性5%以下にすることであり、そのためには喫煙防止や禁煙の普及啓発をより一層推し進めていく必要があると思われる。A県の児童生徒から成人への移行期にある大学生や専門学校などの学生を対象とした喫煙の実態調査は行われていない。そのため、大学生や専門学校の学生は、どのような喫煙状況にあり、また、喫煙に関してどのような課題があるのかは定かではない。

以上のことから、A県の大学生及び専門学校の学生を対象とした喫煙の実態調査を行うことにより、これら学生を対象とした喫煙防止及び禁煙対策を推進していくための示唆を得ることができると考える。

また、青森県保健衛生課から世界禁煙デー（5月31日）の前日、この実態調査結果が発表になり、その要約が地方紙である東奥日報および陸奥新報の2009（平成21）年5月30日（土曜日）版に掲載された。

## 研究目的

A県の大学生及び専門学校生の喫煙の実態を把握することで、これら学生における喫煙防止対策を推進していくための課題を明らかにする。

## 研究方法

### 1. 研究期間

2008(平成20)年4月～2008(平成20)年7月

### 2. 研究対象

A県の大学6校及び各種専門学校4校の計10校の学生を対象とした。

### 3. データ収集方法

調査内容は、①対象者の属性(年齢・性別)、②喫煙状況(喫煙頻度、喫煙本数、喫煙をしている理由、喫煙を止めようと思ったことや禁煙指導の希望の有無、喫煙し始めた時期と習慣化した時期、喫煙したきっかけ、家族の喫煙状況、喫煙への考え、受動喫煙に対する意識など)であった(資料1;質問1～10, 12, 17)。

調査は自記式無記名により行った。10校の学校の学校長宛に、調査の協力を依頼する文書と共に調査票を送付した。調査協力が得られた各学校から学生へ調査票を配布した。学生が記入した調査票は、各自が回収用ボックスに投函した。各学校が回収ボックスから回収した調査票を返送してもらった。

### 4. 分析方法

対象者の属性について、全体及び男女別に年齢毎の単純集計と、全体及び男女別に喫煙の有無について単純集計を行った。次に、現在も喫煙をしている喫煙者の喫煙頻度(ほとんど毎日・週に1～3日・月に1～3日)及び1日の喫煙本数(4本以下・5～10本・11～20本・21本以上)によって、喫煙を続けている理由、たばこをやめようと思ったことの有無、禁煙指導の希望の有無、たばこを初めて吸った時期、初めて喫煙した時に家族の中で喫煙をしていた人やたばこを吸ったきっかけ、喫煙が習慣化した時期、喫煙についての考えについて単純集計を行った。

自由記載による受動喫煙の考えについては、現在たばこを吸っている人の意見について内容の類似性により分類した。

### 5. 倫理的配慮

本研究は、青森県健康福祉部保健衛生課からの委託を受けて行った「平成20年度青年層の喫煙・飲酒実態調査」の調査結果を基にしている。委託調査の結果の使用及び研究報告を公表することについては、青森県健康福祉部保健衛生課より文書による許可を得た。

青森県健康福祉部保健衛生課からの委託による「平成20年度青年層の喫煙・飲酒実態調査」の調査にあたっては、各学校の代表者に研究目的及び研究方法について説

明し、実態調査の同意を得た。そして、各学校の代表者から対象者へ、実態調査への協力は強制ではないこと、実態調査の目的及び方法、実態調査に関する質問や意見についてはいつでも答えられる用意があることを口頭にて説明を行った。以上は、ヒトを対象とする医学的研究の倫理的原則を示したヘルシンキ宣言を順守して行われた。実態調査への協力は回収ボックスへの投函をもって同意とみなした。得られたデータは統計的な処理を行い、その際、施設や個人が特定されないように配慮した。

## 結果

### 1. 対象者の属性(表1)

表1 対象者の年齢別の割合 [人数(%)]

対象者 回答者数	全体 n=2,180	男性 n=1,238	女性 n=942
18歳以下	378 (17.3)	202 (16.3)	176 (18.7)
19歳	550 (25.2)	267 (21.6)	283 (30.0)
20歳代	1,240 (57.0)	762 (61.5)	478 (50.8)
30歳代	10 (0.4)	7 (0.6)	3 (0.3)
40歳代	1 (0.05)	0 (0)	1 (0.1)
50歳代	1 (0.05)	0 (0)	1 (0.1)
総数	2,180 (100)	1,238 (100)	942 (100)

A県内の大学6校と各種専門学校4校の計10校から2,567件の回答が得られた。うち、有効回答数は2,180件(84.9%)であった。

表1は、対象者の年齢別を全体及び男女別で示したものである。対象者2,180名中、男性1,238名(56.8%)、女性942名(43.2%)であった。対象者の年齢は、18歳以下は、全体の17.3%であった。19歳は全体で25.2%、20歳代57.0%、30歳代0.4%、40歳代及び50歳代は各0.05%であった。対象者の平均年齢は、 $19.9 \pm 2.75$ 歳であった。

### 2. 全体の喫煙状況

#### 1) 喫煙者の割合(表2)

表2は、喫煙者の割合を全体及び男女別で示したものである。A県内大学生及び専門学校生2,180名中、現在もたばこを吸っている者は、全体で468名(21.5%)、男性333名(26.9%)、女性135名(14.3%)であった。

表2 喫煙者の割合 [人数(%)]

対象者 回答者数	全体 n=2,180	男性 n=1,238	女性 n=942
現在も吸っている	468 (21.5)	333 (26.9)	135 (14.3)
今はやめている	297 (13.6)	285 (14.9)	112 (11.9)
吸ったことがない	1415 (64.9)	720 (58.2)	695 (73.8)
総数	2,180(100)	1,238(100)	942(100)

#### 2) 喫煙頻度(表3)

表3は、現在たばこを吸っている人の喫煙頻度を全体、男女別で示したものである。現在もたばこを吸っている人468名中、ほとんど毎日喫煙している人は、全体では

表3 喫煙頻度〔人数(%)〕

現在も吸っている人 回答者数	全体 n=468	男性 n=333	女性 n=135
ほとんど 毎日喫煙している	408 (87.2)	295 (88.6)	113 (83.7)
週に1-3日喫煙している	41 (8.8)	26 (7.8)	15 (11.1)
月に1-3日喫煙している	9 (1.9)	6 (1.8)	3 (2.2)
不定期	3 (0.6)	3 (0.9)	0 (0)
頻度不明	7 (1.5)	3 (0.9)	4 (3.0)
総数	468 (100)	333 (100)	135 (100)

408名(87.2%),その平均年齢は20.2±2.40歳であった。週に1～3日喫煙している人は全体で41名(8.8%),平均年齢は20.3±2.08歳であった。月に1～3日喫煙している人は全体で9名(1.9%),平均年齢20.2±1.56歳であった。その他には「飲酒時のみ」「年1回」と、定期的に喫煙をしているのではなく、不定期に喫煙していた。

## 3) 1日の喫煙本数(表4)

表4は、現在もたばこを吸っている人の1日の喫煙本数を全体及び男女別で示したものである。現在も喫煙をしている人468名で、1日の喫煙本数で最も多い回答は、5～10本で173名(37.0%)であった。男女別では、男性の126名(37.8%)が11～20本と最も多い回答をしていた。また1日21本以上喫煙する人の割合が男性では8.1%と、女性4.4%の2倍であった。女性において最も多い回答は5～10本で57名(42.2%)であった。

表4 喫煙本数〔人数(%)〕

現在も吸っている人 回答者数	全体 n=468	男性 n=333	女性 n=135
4本以下	56 (12.0)	36 (10.8)	20 (14.8)
5-10本	173 (37.0)	116 (34.8)	57 (42.2)
11-20本	163 (34.8)	126 (37.8)	37 (27.4)
21本以上	33 (7.0)	27 (8.1)	6 (4.4)
本数不明	43 (9.2)	28 (8.5)	15 (11.2)
総数	468 (100)	333 (100)	135 (100)

## 4) 喫煙頻度別及び1日の喫煙本数別による喫煙状況

## (1)喫煙を続けている理由(表5・6)

表5,6は、現在たばこを吸っている人を対象に、喫煙を続けている理由を、それぞれ喫煙頻度別、喫煙本数別で示した。現在たばこを吸っている人468名で、喫煙を続けている理由で最も多いのは「やめられない」で253名(54.1%)であった。次いで「落ち着くから」で240名(51.3%)、「ストレス解消のため」235名(50.2%)であった。「その他の理由」12名のうち、自由記載による回答が5件あった。その内容は「好き」「うまい」「生きがい」「便通が良くなるから」「まだいいかな」各1件であった。

喫煙頻度別では、ほとんど毎日喫煙している人で、最も多い理由は「やめられない」で61.5%、次いで「落ち着くから」で53.4%、「ストレス解消のため」50.5%であった。週に1～3日の喫煙をしている人及び月に1～3日

表5 喫煙を続けている理由(喫煙頻度別)〈複数回答〉〔人数(%)〕

喫煙頻度別 回答者数	全体 n=468	ほとんど毎日 n=408	週に1-3日 n=41	月に1-3日 n=9	不定期 n=3	頻度不明 n=7
やめられないから	253 (54.1)	251 (61.5)	1 (2.4)	0 (0)	1 (33.3)	0 (0)
ストレス解消のため	235 (50.2)	206 (50.5)	22 (53.7)	6 (66.7)	1 (33.3)	0 (0)
落ち着くから	240 (51.3)	218 (53.4)	18 (43.9)	4 (44.4)	0 (0)	0 (0)
やめると太るから	30 (6.4)	30 (7.4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
周囲の友人が吸っているから	40 (8.5)	35 (8.6)	5 (12.2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
眠気覚まし	49 (10.5)	43 (10.5)	4 (9.8)	1 (11.1)	0 (0)	1 (14.3)
気分のメリハリ	109 (23.3)	99 (24.3)	9 (22.0)	1 (11.1)	0 (0)	0 (0)
ただなんとなく	115 (24.6)	102 (25.0)	9 (22.0)	3 (33.3)	1 (33.3)	0 (0)
かっこよく見えるから	17 (3.6)	15 (3.7)	2 (4.9)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
その他の理由	12 (2.6)	11 (2.7)	1 (2.4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
無回答	10 (2.1)	2 (0.5)	1 (2.4)	1 (11.1)	0 (0)	6 (85.7)
総数	1,110 (237.2)	1,012 (248.0)	72 (175.6)	16 (177.8)	3 (100)	7 (100)

表6 喫煙を続けている理由(喫煙本数別)〈複数回答〉〔人数(%)〕

喫煙本数別 回答者数	全体 n=468	4本以下 n=56	5-10本 n=173	11-20本 n=163	21本以上 n=33	本数不明 n=43
やめられないから	253 (54.1)	15 (26.8)	95 (54.9)	113 (69.3)	27 (81.8)	3 (7.0)
ストレス解消のため	235 (50.2)	27 (48.2)	94 (54.3)	75 (46.0)	18 (54.5)	21 (48.8)
落ち着くから	240 (51.3)	20 (35.7)	102 (59.0)	83 (50.9)	22 (66.7)	13 (30.2)
やめると太るから	30 (6.4)	1 (1.8)	11 (6.4)	14 (8.6)	3 (9.1)	1 (2.3)
周囲の友人が吸っているから	40 (8.5)	7 (12.5)	13 (7.5)	17 (10.4)	2 (6.1)	1 (2.3)
眠気覚まし	49 (10.5)	4 (7.1)	19 (11.0)	19 (11.7)	5 (15.2)	2 (4.7)
気分のメリハリ	109 (23.3)	11 (19.6)	41 (23.7)	42 (25.8)	9 (27.3)	6 (14.0)
ただなんとなく	115 (24.6)	12 (21.4)	38 (22.0)	42 (25.8)	10 (30.3)	13 (30.2)
かっこよく見えるから	17 (3.6)	2 (3.6)	7 (4.0)	6 (3.7)	1 (3.0)	1 (4.7)
その他の理由	12 (2.6)	2 (3.6)	2 (1.2)	6 (3.7)	1 (3.0)	1 (4.7)
無回答	10 (2.1)	1 (1.8)	1 (0.6)	0 (0)	0 (0)	8 (18.6)
総数	1,110 (237.2)	102 (182.1)	423 (244.5)	417 (255.8)	98 (297.0)	70 (162.8)

喫煙をしている人の喫煙を続けている理由は、「ストレス解消のため」で、それぞれ53.7%、66.7%と最も多かった。次いで「落ち着くから」で、週に1～3日喫煙している人が43.9%、月に1～3日喫煙している人が44.4%であった。逆に「やめられないから」という理由で喫煙を続けている人はほとんどいなかった。

1日の喫煙本数別にみると、1日の喫煙本数が11～20本及び21本以上では、「やめられない」がそれぞれ69.3%、81.8%と最も多い理由であった。1日の喫煙本数が4本以下では、「ストレス解消のため」が48.2%、1日の喫煙本数が5～10本では、「落ち着くから」が59.0%と最も回答が多かった。喫煙を続けている理由の項目毎に1日の喫煙本数別の割合を比較すると、「やめられないから」は喫煙本数が多い人ほど回答数が多い傾向にあった。

(2)たばこをやめようと思ったこと及び禁煙指導の希望 (表7～10)

現在たばこを吸っている人を対象に、表7、9はたばこをやめようと思ったことの有無を、表8、10は禁煙指導の希望の有無を、それぞれ喫煙頻度別、喫煙本数別で示したものである。現在たばこを吸っている人468名

中、たばこを止めようと思ったことがある人は、350名(74.8%)、ない人は105名(22.4%)であった。現在たばこを吸っている人468名中、効果的な禁煙方法があったら指導を受けたい人は262名(56.0%)、希望しない人は187名(40.0%)であった。

喫煙頻度別では、ほとんど毎日喫煙している人で、たばこをやめようと思ったことがある人は77.5%であった。効果的な禁煙方法があったら指導を受けたい人は59.6%であった。指導を希望しない人は37.8%で、その理由の自由記載として最も多いのが「やめる気がない」「やめる必要がない」で、禁煙する意思がないことがあげられていた(回答数28件)。その他少数の理由には「自分で(禁煙)できる」(回答数16件)「面倒」(回答数4件)「妊娠したらやめる」(回答数1件)と、自分でたばこをやめることができるという記載がみられた。週に1～3日喫煙している人で、たばこをやめようと思ったことがある人は70.7%であった。効果的な禁煙方法があったら指導を受けたい人は34.1%、希望しない人は65.9%と効果的な禁煙方法の指導を希望しない人が多かった。月に1～3日喫煙をしている人で、たばこをやめようと思ったことがある人は44.4%で、さらに効果的な禁煙方法で

表7 たばこをやめようと思ったこと (喫煙頻度別) [人数(%)]

喫煙頻度別 回答者数	全体 n=468	ほとんど毎日 n=408	週に1-3日 n=41	月に1-3日 n=9	不定期 n=3	頻度不明 n=7
ある	350 (74.8)	316 (77.5)	29 (70.7)	4 (44.4)	1 (33.3)	0 (0)
ない	105 (22.4)	86 (21.1)	12 (29.3)	4 (44.4)	2 (66.7)	1 (14.3)
無回答	13 (2.8)	6 (1.4)	0 (0)	1 (11.2)	0 (0)	6 (85.7)
総数	468 (100)	408 (100)	41 (100)	9 (100)	3 (100)	7 (100)

表8 禁煙指導の希望 (喫煙頻度別) [人数(%)]

喫煙頻度別 回答者数	全体 n=468	ほとんど毎日 n=408	週に1-3日 n=41	月に1-3日 n=9	不定期 n=3	頻度不明 n=7
はい	262 (56.0)	243 (59.6)	14 (34.1)	3 (33.3)	1 (33.3)	1 (14.3)
いいえ	187 (40.0)	154 (37.8)	27 (65.9)	5 (55.6)	1 (33.3)	0 (0)
無回答	19 (4.0)	11 (2.6)	0 (0)	1 (11.1)	7 (33.3)	6 (85.7)
総数	468 (100)	408 (100)	41 (100)	9 (100)	3 (100)	7 (100)

表9 たばこをやめようと思ったこと (喫煙本数別) [人数(%)]

喫煙本数別 回答者数	全体 n=468	4本以下 n=56	5-10本 n=173	11-20本 n=163	21本以上 n=33	本数不明 n=43
ある	350 (74.8)	41 (73.2)	136 (78.6)	132 (81.0)	18 (54.5)	23 (53.5)
ない	105 (22.4)	13 (23.2)	37 (21.4)	29 (17.8)	14 (42.4)	12 (27.9)
無回答	13 (2.8)	2 (3.6)	0 (0)	2 (1.2)	1 (3.1)	8 (18.6)
総数	468 (100)	56 (100)	173 (100)	163 (100)	33 (100)	43 (100)

表10 禁煙指導の希望 (喫煙本数別) [人数(%)]

喫煙本数別 回答者数	全体 n=468	4本以下 n=56	5-10本 n=173	11-20本 n=163	21本以上 n=33	本数不明 n=43
はい	262 (56.0)	28 (50.0)	107 (61.8)	97 (59.5)	18 (54.5)	12 (27.9)
いいえ	187 (40.0)	26 (46.4)	63 (36.4)	61 (37.4)	15 (45.5)	22 (51.2)
無回答	19 (4.0)	2 (3.6)	3 (1.8)	5 (3.1)	0 (0)	9 (20.9)
総数	468 (100)	56 (100)	173 (100)	163 (100)	33 (100)	43 (100)

指導を受けたい人は33.3%、希望しない人が55.6%であった。週に1～3日喫煙者及び月に1～3日喫煙している人の、効果的な禁煙方法の指導を希望しない理由の記述として最も多かったのは「自分でやめられる」（回答数12件）で、少数意見では「実生活に影響がない」「必要がない」があった。

1日の喫煙本数別でのたばこを止めようと思ったことがある人は、1日の喫煙本数が4本、5～10本、11～20本では、それぞれ73.2%、78.6%、81.0%であるのに対し、1日の喫煙本数が21本以上でたばこをやめようと思ったのは54.5%であった。効果的な禁煙方法の指導を希望する人の割合は、1日の喫煙本数5-10本で61.8%と最も多く、次いで11～20本で59.5%、21本以上で54.5%、4本以下で50.0%と、喫煙本数に関わりなく全てにおいて50%以上であった。

(3)たばこを初めて吸った時期（表11・12）

表11、12は、現在たばこを吸っている人を対象に、たばこを初めて吸った時期について、喫煙頻度別、喫煙本数別で示したものである。現在たばこを吸っている人468名中で、最も多い回答は「中学生」で166名（35.5%）であった。次いで「高校卒業後」で122名（26.1%）、「高校生」で120名（25.6%）であった。

喫煙頻度別にみると、ほとんど毎日喫煙している人で最も多い回答は「中学生」で36.5%、次いで「高校生」26.5%、「高校卒業後」23.3%であった。「小学生入学前」及び「小学生」と回答したのは併せて12.2%であった。週に1～3日、月に1～3日喫煙をしている人で最も多い回答は「高校卒業後」で、それぞれ51.2%、44.5%、

次いで「中学生」で、それぞれ24.4%、33.3%であったが、「小学校入学前」に初めてたばこを吸ったと回答した人はなかった。

1日の喫煙本数別では、喫煙本数が21本以上において、最も多い回答は「中学生」で42.4%、次いで「小学生」27.3%であった。喫煙本数が11～20本では「中学生」で38.7%が、5～10本では「中学生」と「高校生」が同数で31.8%と最も回答が多かった。1日の喫煙本数が4本以下では「高校卒業後」が39.3%で最も多かった。

(4)初めて喫煙した時に家族の中で喫煙をしていた人（表13・14）

表13、14は、現在たばこを吸っている人を対象に、初めて喫煙した時に家族の中で喫煙していた人について、喫煙頻度別、喫煙本数別に示したものである。現在たばこを吸っている人468名において、その他及び無回答を除いた家族（父・母・姉・兄・妹・弟・祖父・祖母）の中で喫煙している人の総数は669名であった。家族の中で喫煙している人で最も多い回答は「父」290名（62.0%）であった。次いで「母」が130名（27.8%）であった。「父」「母」共に喫煙していると回答したものは104名（22.2%）であった。両親の次に多く喫煙をしている家族は「祖父」79名（16.9%）であった。「その他」の35件中、自由記載は17件あった。最も多い回答は「誰も吸っていない」13件であった。無回答は73名（15.6%）であった。初めて喫煙した時に家族の中で喫煙をしていた人の項目に「誰も吸っていない」という項目がなかったため、家族に喫煙者がいなかった場合、回答しなかった可能性がある。そのため、調査結果で得られた「その他」の「誰

表11 たばこを初めて吸った時期（喫煙頻度別）〔人数(%)〕

喫煙頻度別 回答者数	全体 n=468	ほとんど毎日 n=408	週に1-3日 n=41	月に1-3日 n=9	不定期 n=3	頻度不明 n=7
小学校入学前	5 (1.1)	5 (1.2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
小学生	47 (10.0)	45 (11.0)	2 (4.9)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
中学生	166 (35.5)	149 (36.5)	10 (24.4)	3 (33.3)	0 (0)	4 (57.1)
高校生	120 (25.6)	108 (26.5)	8 (19.5)	2 (22.2)	1 (33.3)	1 (14.3)
高校卒業後	122 (26.1)	95 (23.3)	21 (51.2)	4 (44.5)	2 (66.7)	0 (0)
不明	1 (0.2)	1 (0.3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
無回答	7 (1.5)	5 (1.2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (28.6)
総数	468 (100)	408 (100)	41 (100)	9 (100)	3 (100)	7 (100)

表12 たばこを初めて吸った時期（喫煙本数別）〔人数(%)〕

喫煙本数別 回答者数	全体 n=468	4本以下 n=56	5-10本 n=173	11-20本 n=163	21本以上 n=33	本数不明 n=43
小学校入学前	5 (1.1)	2 (3.6)	0 (0)	2 (1.23)	1 (3.03)	0 (0)
小学生	47 (10.0)	3 (5.35)	16 (9.3)	18 (11.0)	9 (27.3)	1 (2.3)
中学生	166 (35.5)	19 (33.9)	55 (31.8)	63 (38.7)	14 (42.4)	15 (34.9)
高校生	120 (25.6)	10 (17.85)	55 (31.8)	40 (24.54)	7 (21.21)	8 (18.6)
高校卒業後	122 (26.1)	22 (39.3)	44 (25.4)	38 (23.3)	2 (6.06)	16 (37.2)
不明	1 (0.2)	0 (0)	1 (0.6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
無回答	7 (1.5)	0 (0)	2 (1.1)	2 (1.23)	0 (0)	3 (7.0)
総数	468 (100)	56 (100)	173 (100)	163 (100)	33 (100)	43 (100)

表 13 初めて喫煙した時に家族の中で喫煙をしていた人（喫煙頻度別）＜複数回答＞〔人数(%)〕

喫煙頻度別 回答者数	全体 n=468	ほとんど毎日 n=408	週に1-3日 n=41	月に1-3日 n=9	不定期 n=3	頻度不明 n=7
父	290 (62.0)	265 (65.0)	15 (36.6)	5 (55.6)	2 (66.7)	3 (42.9)
母	130 (27.8)	118 (28.9)	10 (24.4)	1 (11.1)	0 (0)	1 (14.3)
【父母】	104 (22.2)	97 (23.8)	6 (14.6)	1 (11.1)	0 (0)	0 (0)
姉	51 (10.9)	47 (11.5)	1 (2.44)	2 (22.2)	0 (0)	1 (14.3)
兄	74 (15.8)	68 (16.7)	6 (14.6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
妹	6 (1.3)	6 (1.5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
弟	15 (3.2)	10 (2.5)	3 (7.3)	2 (22.2)	0 (0)	0 (0)
祖父	79 (16.9)	73 (17.9)	2 (4.9)	1 (11.1)	1 (33.3)	2 (28.6)
祖母	24 (5.1)	23 (5.6)	1 (2.44)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
その他	35 (7.5)	33 (8.1)	2 (4.9)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
無回答	73 (15.6)	54 (13.2)	15 (36.6)	3 (33.3)	0 (0)	0 (0)
総数	777 (166.0)	697 (170.8)	55 (134.1)	14 (155.6)	3 (100)	7 (100)

表 14 初めて喫煙した時に家族の中で喫煙をしていた人（喫煙本数別）＜複数回答＞〔人数(%)〕

喫煙本数別 回答者数	全体 n=468	4本以下 n=56	5-10本 n=173	11-20本 n=163	21本以上 n=33	本数不明 n=43
父	290 (62.0)	32 (57.1)	110 (63.6)	104 (63.8)	27 (81.8)	17 (39.5)
母	130 (27.8)	16 (28.6)	53 (30.6)	46 (28.2)	8 (24.2)	7 (16.3)
【父母】	104 (22.2)	13 (23.2)	39 (22.5)	42 (25.8)	7 (21.2)	3 (7.0)
姉	51 (10.9)	3 (5.4)	25 (14.5)	16 (9.8)	5 (15.2)	2 (4.7)
兄	74 (15.8)	8 (14.3)	32 (18.5)	21 (12.9)	9 (27.3)	4 (9.3)
妹	6 (1.3)	0 (0)	2 (1.2)	3 (1.8)	1 (3.0)	0 (0)
弟	15 (3.2)	2 (3.6)	7 (4.0)	1 (0.6)	2 (6.1)	3 (7.0)
祖父	79 (16.9)	9 (16.1)	28 (16.2)	31 (19.0)	5 (15.2)	6 (14.0)
祖母	24 (5.1)	4 (7.1)	6 (3.5)	10 (6.1)	4 (12.1)	0 (0)
その他	35 (7.5)	5 (8.9)	10 (5.8)	15 (9.2)	3 (9.1)	2 (4.7)
無回答	73 (15.6)	11 (19.6)	22 (12.7)	23 (14.1)	3 (9.1)	14 (32.6)
総数	777 (166.0)	90 (160.7)	295 (170.5)	270 (165.6)	67 (203.0)	55 (127.9)

も吸っていない」は、13件よりも多い可能性がある。

喫煙頻度別では、その他及び無回答を除いた家族の中で喫煙している人（父・母・姉・兄・妹・弟・祖父・祖母）の総数は、ほとんど毎日喫煙している人は610名、週に1～3日喫煙している人は38名、月に1～3日喫煙している人は11名であった。ほとんど毎日喫煙している人において、家族の中で喫煙をしていた人として最も多い回答が「父親」で65.0%であった。次いで「母親」が28.9%、「祖父」が17.9%、「兄」が16.7%、「姉」が11.5%であった。両親ともに喫煙をしていると回答したものは23.8%であった。「その他」33名のうち、自由記載として多かったのは「誰も吸っていない」で12件であった。週に1～3日、月に1～3日喫煙をしている人においても、「父親」の喫煙の割合が最も高く、それぞれ36.6%、55.6%であった。月に1～3日喫煙をしている人では、「父親」の次に「母親」ではなく、「姉」22.2%と「弟」22.2%の割合が高かった。無回答について、ほとんど毎日喫煙している人は13.2%、週に1～3日は36.6%、月に1～3日は33.3%であった。

1日の喫煙本数別では、その他及び無回答を除き、家族の中で喫煙している人（父・母・姉・兄・妹・弟・祖父・祖母）の総数は、1日の喫煙本数が4本以下は74名、5～10本は263名、11～20本は232名、21本以上は61名であった。それぞれの喫煙本数で最も多く回答して

いた人は「父親」で、4本以下では57.1%、5～10本では63.6%、11～20本では63.8%、21本以上では81.8%であった。1日の喫煙本数が4本以下、5～10本、11～20本で、2番目に多い回答は「母親」で、それぞれ28.6%、30.6%、28.2%であった。1日の喫煙本数が21本以上で2番目に多い回答は「兄」27.3%であった。両親ともに喫煙をしていた人の割合で最も高かったのは11～20本で25.8%であった。「その他」の「誰も吸っていない」は、喫煙本数5～10本が5件、喫煙本数11～20本が8件であった。無回答については、1日の喫煙本数4本以下が19.6%、5～10本が12.7%、11～20本が14.1%、21本以上が9.1%であった。

#### (5) たばこを吸ったきっかけ（表15・16）

表15、16は、現在たばこを吸っている人を対象に、たばこを吸ったきっかけについて、喫煙頻度別及び喫煙本数別にまとめたものである。現在たばこを吸っている人468名中、最も多い回答は「友人・先輩にすすめられて」183名（39.1%）で、次いで「ただなんとなく」173名（37.0%）であった。たばこを吸ったきっかけの「その他の理由」40名中、自由記載は19件あった。最も多い回答は「ストレスがたまっていたから」であった（回答数11件）。たばこをすすめられてはいないが「まわりの人の影響」という回答もあった（回答数4件）。

表 15 たばこを吸ったきっかけ（喫煙頻度別）＜複数回答＞〔人数(%)〕

喫煙頻度別 回答者数	全体 n=468	ほとんど毎日 n =408	週に1-3日 n =41	月に1-3日 n =9	不定期 n=3	頻度不明 n=7
興味があった	151 (32.3)	134 (32.8)	13 (31.7)	4 (44.4)	0 (0)	0 (0)
友人・先輩にすすめられて	183 (39.1)	166 (40.7)	14 (34.1)	1 (11.1)	0 (0)	2 (28.6)
かっこよく見えたから	38 (8.1)	34 (8.3)	2 (4.9)	1 (11.1)	1 (33.3)	0 (0)
大人になった気分になれるから	24 (5.1)	21 (5.1)	0 (0)	2 (22.2)	0 (0)	0 (0)
家族にすすめられて	15 (3.2)	11 (2.7)	1 (2.4)	1 (11.1)	1 (33.3)	1 (14.3)
ただなんとなく	173 (37.0)	150 (36.8)	16 (39.0)	5 (55.6)	1 (33.3)	1 (14.3)
その他の理由	40 (8.5)	34 (8.3)	3 (7.3)	1 (11.1)	1 (33.3)	1 (14.3)
無回答	8 (1.7)	4 (0.98)	1 (2.4)	1 (11.1)	0 (0)	2 (28.6)
総数	632 (135.0)	554 (135.8)	50 (122.0)	16 (177.8)	4 (133.3)	7 (100)

表 16 たばこを吸ったきっかけ（喫煙本数別）＜複数回答＞〔人数(%)〕

喫煙本数別 回答者数	全体 n=468	4本以下 n =56	5-10本 n =173	11-20本 n =163	21本以上 n =33	本数不明 n=43
興味があった	151 (32.3)	16 (28.6)	49 (28.3)	57 (35.0)	17 (51.5)	11 (25.6)
友人・先輩に勧められて	183 (39.1)	21 (37.5)	73 (42.2)	66 (40.5)	13 (39.4)	10 (23.3)
かっこよく見えたから	38 (8.1)	5 (8.9)	16 (9.2)	11 (6.7)	4 (12.1)	2 (4.7)
大人になった気分になれるから	24 (5.1)	4 (7.1)	6 (3.5)	9 (5.5)	2 (6.1)	3 (7.0)
家族に勧められて	15 (3.2)	2 (3.6)	4 (2.3)	6 (3.7)	1 (3.0)	2 (4.7)
ただなんとなく	173 (37.0)	21 (37.5)	68 (39.3)	55 (33.7)	14 (42.4)	15 (34.9)
その他の理由	40 (8.5)	7 (12.5)	13 (7.5)	13 (8.0)	2 (6.1)	5 (11.6)
無回答	8 (1.7)	0 (0)	1 (0.6)	2 (1.2)	0 (0)	5 (11.6)
総数	632 (135.0)	76 (135.7)	230 (265.9)	219 (134.4)	53 (160.6)	53 (123.3)

喫煙頻度別において、ほとんど毎日喫煙している人のたばこを吸ったきっかけとして最も多い回答は「友人・先輩にすすめられて」40.7%であった。次に多い回答は「ただなんとなく」36.8%、「興味があった」32.8%と続いていた。ほとんど毎日喫煙している人の「その他の理由」で最も多い回答は、「ストレスがたまっていたから」8件であった。週に1～3日、月に1～3日喫煙をしている人において一番多い回答は「ただなんとなく」で、それぞれ39.0%、55.6%であった。また、「家族にすすめられて」は、現在喫煙をしている人468名のうち15名(3.2%)と、「その他の理由」を除くと最も回答が少なかったが、そのうち11名はほとんど毎日喫煙している人であった。

1日の喫煙本数別では、1日の喫煙本数が21本以上で最も多い回答が「興味があった」51.5%で、次いで「ただなんとなく」42.4%であった。喫煙本数が1日5～10本、11～20本では「友人・先輩にすすめられて」が最も多く、それぞれ42.2%、40.5%であった。1日の喫煙本数が4

本以下では「友人・先輩にすすめられて」と「ただなんとなく」が同数で多い回答の37.5%であった。たばこを吸ったきっかけの項目毎で、1日の喫煙本数別の割合を比べると「興味があった」において1日の喫煙本数が多い人ほど回答数が多い傾向がみられた。「その他の理由」の「ストレスがたまっていたから」は、1日の喫煙本数が4本以下では2件、5～10本では4件、11～20本では2件、21本以上では2件であった。喫煙本数11～20本では「まわりの人の影響」3件であった。

#### (6)喫煙が習慣化した時期（表17・18）

表17、18は、現在たばこを吸っている人を対象に、喫煙が習慣化した時期について、喫煙頻度別、喫煙本数別にまとめたものである。

現在タバコを吸っている人468名中、喫煙が習慣化した時期で最も多い回答は「高校生」202名(43.2%)であった。次いで「中学生」86名(18.4%)、「20歳代」58名(12.4%)であった。

表 17 喫煙が習慣化した時期（喫煙頻度別）〔人数(%)〕

喫煙頻度別 回答者数	全体 n=468	ほとんど毎日 n =408	週に1-3日 n =41	月に1-3日 n =9	不定期 n=3	頻度不明 n=7
小学生	11 (2.3)	10 (2.5)	1 (2.4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
中学生	86 (18.4)	80 (19.6)	4 (9.8)	0 (0)	0 (0)	2 (28.6)
高校生	202 (43.2)	192 (47.1)	8 (19.5)	2 (22.2)	0 (0)	0 (0)
19歳	35 (7.5)	32 (7.8)	2 (4.9)	0 (0)	1 (33.3)	0 (0)
20歳代	58 (12.4)	37 (9.1)	16 (39.0)	2 (22.2)	2 (66.7)	1 (14.3)
30歳代	1 (0.2)	0 (0)	1 (2.4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
40歳代	1 (0.2)	1 (0.2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
無回答	74 (15.8)	56 (13.7)	9 (22.0)	5 (55.6)	0 (0)	4 (57.1)
総数	468 (100)	408 (100)	41 (100)	9 (100)	3 (100)	7 (100)



表 18 喫煙が習慣化した時期（喫煙本数別）〔人数(%)〕

喫煙本数別 回答者数	全体 n=468	4本以下 n=56	5-10本 n=173	11-20本 n=163	21本以上 n=33	本数不明 n=43
小学生	11 (2.3)	4 (7.15)	3 (1.7)	2 (1.2)	2 (6.05)	0 (0)
中学生	86 (18.4)	4 (7.15)	27 (15.6)	32 (19.6)	16 (48.5)	7 (16.3)
高校生	202 (43.2)	22 (39.3)	85 (49.1)	79 (48.5)	12 (36.4)	4 (9.3)
19歳	35 (7.5)	1 (1.8)	19 (11.0)	13 (8.0)	0 (0)	2 (4.7)
20歳代	58 (12.4)	13 (23.2)	14 (8.1)	16 (9.8)	2 (6.05)	13 (30.2)
30歳代	1 (0.2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (2.3)
40歳代	1 (0.2)	0 (0)	1 (0.6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
無回答	74 (15.8)	12 (21.4)	24 (13.9)	21 (12.9)	1 (3.0)	16 (37.2)
総数	468 (100)	56 (100)	173 (100)	163 (100)	33 (100)	43 (100)

喫煙頻度別において、ほとんど毎日喫煙している人の、喫煙が習慣化する時期で最も多い回答が「高校生」47.1%で、次いで「中学生」19.6%であった。週に1～3日喫煙をしている人では「20歳代」が39.0%、月に1～3日喫煙している人では「高校生」「20歳代」がそれぞれ22.2%で最も多い回答であった。月に1～3日喫煙をしている人においては、「中学生」「小学生」と回答した人はいなかった。

1日の喫煙本数別において、1日の喫煙本数が4本以下、5～10本、11～20本で、喫煙が習慣化した時期として多いのが「高校生」であり、それぞれ39.3%、49.1%、48.5%であった。1日の喫煙本数が21本以上では、「中学生」に習慣化したと回答したものが48.5%と多く、次いで「高校生」36.4%であった。

#### (7)喫煙についての考え（表19・20）

表19、20は、現在たばこを吸っている人を対象に、喫煙についての考えを、喫煙頻度別、喫煙本数別にまとめたものである。現在タバコを吸っている人468名にお

いて、最も多い回答が「他人の迷惑にならないように吸うのは構わない」184名(39.3%)であった。次に多かったのは「嗜好品だから本人の自由」で126名(26.9%)、「体に悪いのでやめたほうがよい」で94名(20.1%)であった。「その他の理由」5名のうち自由記載は2件あり、「体に悪いんだから法律で取り締まればよい」「隅で吸うのは構わない」であった。

喫煙頻度別では、ほとんど毎日喫煙している人において最も多い回答が、「他人の迷惑にならないように吸うのは構わない」37.7%であった。週に1～3日、月に1～3日喫煙をしている人も同様で、それぞれ53.6%、55.6%であった。次に多い回答として、ほとんど毎日喫煙している人では「嗜好品だから本人の自由」28.7%であったが、週に1～3日、月に1～3日喫煙をしている人では「体に悪いのでやめたほうがよい」でそれぞれ19.5%、22.2%であった。喫煙についての考え方の項目毎に、喫煙頻度の割合をみると、「嗜好品だから本人の自由」では喫煙頻度が増すほど、「他人の迷惑にならないように吸うのは構わない」では喫煙頻度が減少するほど多かった。

表 19 喫煙についての考え（喫煙頻度別）〔人数(%)〕

喫煙頻度別 回答者数	全体 n=468	ほとんど毎日 n=408	週に1-3日 n=41	月に1-3日 n=9	不定期 n=3	頻度不明 n=7
嗜好品だから本人の自由	126 (26.9)	117 (28.7)	7 (17.1)	1 (11.1)	0 (0)	1 (14.3)
他人の迷惑にならないように 吸うのは構わない	184 (39.3)	154 (37.7)	22 (53.6)	5 (55.6)	1 (33.3)	2 (28.6)
体に悪いのでやめたほうがよい	94 (20.1)	81 (19.9)	8 (19.5)	2 (22.2)	1 (33.3)	2 (28.6)
わからない	23 (4.9)	20 (4.9)	2 (4.9)	0 (0)	0 (0)	1 (14.3)
その他の理由	5 (1.1)	4 (1.0)	0 (0)	1 (11.1)	0 (0)	0 (0)
無回答	36 (7.7)	32 (7.8)	2 (4.9)	0 (0)	1 (33.3)	1 (14.3)
総数	468 (100)	408 (100)	41 (100)	9 (100)	3 (100)	7 (100)

表 20 喫煙についての考え（喫煙本数別）〔人数(%)〕

喫煙本数別 回答者数	全体 n=468	4本以下 n=56	5-10本 n=173	11-20本 n=163	21本以上 n=33	本数不明 n=43
嗜好品だから本人の自由	126 (26.9)	15 (26.8)	47 (27.2)	46 (28.2)	12 (36.4)	6 (14.0)
他人の迷惑にならないように 吸うのは構わない	184 (39.3)	21 (37.5)	71 (41.0)	57 (35.0)	10 (30.3)	25 (58.1)
体に悪いのでやめたほうがよい	94 (20.1)	16 (28.6)	28 (16.2)	36 (22.1)	6 (18.2)	8 (18.6)
わからない	23 (4.9)	1 (1.8)	13 (7.5)	7 (4.3)	2 (6.05)	0 (0)
その他の理由	5 (1.1)	0 (0)	0 (0)	3 (1.8)	1 (3.0)	1 (2.3)
無回答	36 (7.7)	3 (5.3)	14 (8.1)	14 (8.6)	2 (6.05)	3 (7.0)
総数	468 (100)	56 (100)	173 (100)	163 (100)	33 (100)	43 (100)

1日の喫煙本数別では、1日の喫煙本数が4本以下、5～10本、11～20本において、最も多い回答が「他人の迷惑にならないように吸うのは構わない」で、それぞれ37.5%、41.0%、35.0%であった。1日の喫煙本数が21本以上で最も多い回答は「嗜好品だから本人の自由」36.4%であった。

#### 5) 現在たばこを吸っている人の受動喫煙についての考え

現在たばこを吸っている人の受動喫煙についての自由記載は、全部で83件の回答があった。その受動喫煙についての考えについての自由記載で、最も多い意見は「喫煙場所で吸う・マナーを守る・迷惑をかけてはいけない」(回答数20件)、次いで「周りの迷惑になる・子どもやたばこを吸わない人の前では吸わない」(回答数19件)、「申し訳ない」(回答数10件)、「体に悪い」(回答数9件)であった。その他の意見として「なんとも思わない・騒ぎすぎ」(回答数5件)、「受動喫煙が分からない」(回答数3件)、「嫌なら近付くな・自己防衛」(回答数2件)、「仕方がない」(回答数2件)、「他人のタバコは嫌」(回答数2件)という意見もあった。また、「野外で離れていれば影響は少ないと思う」「嫌だと感じる人の前で吸わなければ問題ない」という意見もあった(それぞれ回答数1件)。

### 考察

世界保健機構(World Health Organization;WHO)の2002年の発表によると、たばこは年間490万人の命を奪い、2020年にはその数が840万人増加すると予測され、現在の若年喫煙者の2人に1人はたばこが原因で死亡するとされている(WHOホームページ)。たばこ煙に含まれるニコチン、タール、一酸化炭素などの有害物質が、多くの疾患の原因となることは広く知られている。本研究の目的は、A県内の大学生・専門学校生の喫煙の実態を把握することで、これら学生の喫煙防止対策を推進していくための課題を明らかにすることである。以下、A県内大学生・専門学校生の喫煙の実態について考察し、その上で、喫煙防止対策・禁煙対策・受動喫煙対策について考察する。

#### 1. A県内大学生・専門学校生の喫煙の実態

今回の実態調査において、調査票の回収率が全体で86.3%と高い回収率であった。このことは、A県内大学生及び専門学校生が、喫煙に関しての何らかの意識や関心を持っていることが伺われる。

平成19年国民健康・栄養調査結果(健康局総務課生活習慣病対策室、2008)の成人女性の喫煙率は11.0%、成人男性の喫煙率は39.4%であった。A県内大学生及び専門学校生の喫煙率の特徴として、全国調査と比較し女

性の喫煙率が14.3%と、若干ではあるが上回っていたことがあげられる。また、現在もたばこを吸っている学生の87.2%が、ほとんど毎日喫煙をしていることが明らかになった。A県内大学生及び専門学校生の現在喫煙している人の1日の喫煙本数については、4本以下及び5～10本をあわせて女性は57%、男性は45.6%であった。11～20本及び21本以上をあわせると、女性はおよそ32%、男性はおよそ46%を占め、このことから女性に比べ男性の喫煙本数が多いといえる。

喫煙を続けている理由としては、ほとんど毎日喫煙している学生の61.5%が、たばこをやめることができないために喫煙を続けていた。さらに、1日の喫煙本数が21本以上の学生の81.8%もたばこをやめることができないことを理由に挙げ、1日の喫煙本数が多い学生ほど、たばこをやめることができないために喫煙を続けている傾向にあった。この理由として、喫煙頻度や1日の喫煙本数が増したことでニコチン依存が形成されていることが推察される。

「たばこをやめようと思ったことがある」と答えた学生は、喫煙頻度が低くなるほど、また、1日の喫煙本数が21本以上の者ほど少なかった。さらに、「効果的な禁煙方法があったら指導を受けたい」者の割合は、ほとんど毎日喫煙している学生において59.6%と他の喫煙頻度と比較して高く、毎日喫煙している者ほど効果的な禁煙方法があれば指導を受けたいと希望していた。しかしながら、禁煙指導を希望しない大学生及び専門学校生において、喫煙頻度が低く喫煙本数が少ないほど、自分でたばこをやめられると考えており、喫煙頻度が高く喫煙本数が多いほど、たばこをやめる気がないと考えている傾向がみられた。

初めてたばこを吸った時期は、ほとんど毎日喫煙している学生において「小学生・小学校入学前」と答えた割合がおよそ11%であったことから、ほとんど毎日喫煙している学生の8人に一人が学童期からたばこを吸い始めていたことになる。さらに、1日の喫煙本数別で比較すると、1日の喫煙本数が多くなるほど、初めてたばこを吸う時期が早い傾向にあり、1日の喫煙本数が21本以上で小学生の頃と答えた者はおよそ30%にのぼった。つまり、喫煙頻度と喫煙本数が増すほど学童の時期からたばこを吸い始めている傾向にあった。

初めて喫煙した時期に家族の中で喫煙をしていた人について、ほとんど毎日喫煙している学生において、両親の喫煙、特に父親の喫煙の割合が高く、さらに家族(父・母・姉・兄・妹・弟・祖父・祖母)の喫煙している総数の割合が、他の喫煙頻度の学生よりも高い傾向にあった。1日の喫煙本数別において、1日の喫煙本数が増加するほど父親が喫煙している割合が高かった。加えて、1日

の喫煙本数が21本以上では、家族の喫煙している割合の総数が最も高かった。これらのことより、喫煙頻度が高く、喫煙本数が多い者ほど、家族という身近な人の喫煙行動に多く触れる機会にあったといえる。今回の実態調査で、家族の中で誰も喫煙している人がいないと自由記載で回答した学生は13名であった。しかしながら、調査結果において、現在喫煙している学生の15.6%と6人に一人が無回答であったこと、質問項目の中に「誰も吸っていない」という選択項目がなかったことを考え合わせると、家族に喫煙者がいない場合、無回答として回答した学生がいたであろうと考えられる。喫煙頻度において、週に1～3日、月に1～3日の学生の無回答の回答率は30%を超えていたが、ほとんど毎日喫煙していた学生の無回答の回答率は13%であった。この無回答の回答率は、先の家族に喫煙者がいない場合に無回答として回答したかもしれない可能性を考える。喫煙行動の関連要因の一つに、家族の喫煙が述べられている(西岡, 2005; 喫煙と健康問題に関する検討会, 2002)ことから、推測ではあるが、ほとんど毎日喫煙している学生の家族よりも、喫煙頻度の低い学生の家族は喫煙していない可能性が高いとは考えられないだろうか。

たばこを吸ったきっかけでは、「友人・先輩にすすめられて」の割合が、現在喫煙している学生全体において39%と最も高かった。喫煙頻度では、月に1～3日喫煙をしている学生では11%と低く、ほとんど毎日喫煙している学生では約41%と高い傾向がみられた。1日の喫煙本数別での割合の違いはみられなかった。「ただなんとなく」「興味があった」の割合は、月に1～3日喫煙している人及び1日の喫煙本数が21本以上において高い傾向にあった。喫煙行動の形成に関わる要因の一つに、中高生ともに友人の喫煙の影響が大きいと指摘され(喫煙と健康問題に関する検討会, 2002)、本人が喫煙に肯定的であるほど喫煙する傾向にある(西岡, 2005)といわれていることから、この結果は、喫煙への好奇心や友人との関係性が喫煙行動へとつながっていることが伺える。

喫煙が習慣化した時期について、ほとんど毎日喫煙している学生の約20%が、1日の喫煙本数が21本以上の学生の約49%が、中学生の頃に喫煙が習慣化していた。喫煙頻度が多いほど、喫煙本数が増えるほど、中学生の頃に喫煙が習慣化していた傾向にあった。

喫煙についての考えでは、現在喫煙をしている学生のおよそ40%は「他人の迷惑にならないように吸うのは構わない」と考えていたが、その割合は、ほとんど毎日喫煙している人で37.7%、月に1～3日喫煙している人で55.6%と喫煙頻度が低くなるほど高くなる傾向にあった。「嗜好品だから本人の自由」と答えた学生は、ほとんど毎日喫煙をするものでおよそ29%と、他の喫煙頻

度の学生と比較すると高い傾向にあった。また、1日の喫煙本数が21本以上の学生においても36.4%と、他の喫煙本数の学生と比較して多く回答していた。1日の喫煙本数が4本以下の学生において、たばこは身体に悪いからやめたほうがよいと考えている割合が多い傾向が見られたが、喫煙頻度別による違いはなかった。

受動喫煙についての考えについては、83件の自由記載があった。これは現在たばこを吸っているおよそ18%の学生の意見であるため、A県内大学生及び専門学校生がどのような考えを持っているのかは定かではない。現在たばこを吸っている一部の学生の意見ではあるが、回答のあった83件のうち20件は「喫煙マナーを守り、周りの迷惑になってはいけない」という考えを、19件は「迷惑になるから、子どもやたばこを吸わない人の前では吸わない」と考えを述べていた。また、9件は「体に悪い」と述べていた。これらのことから、受動喫煙の害についておおよそ知識があり、非喫煙者や子どもに影響がないように心がけていることが伺われる。しかしながら、少数ではあったが受動喫煙の害について仕方がない、自己防衛をすればよい、或いは何とも思わない、受動喫煙がわからないといったような、たばこの害についての知識や理解が乏しいと思われる意見もあった。これらのことから、A県内大学生及び専門学校生が、受動喫煙に対しどのように考えているのかを明らかにしていくことは、受動喫煙に関する課題を把握する一つの手がかりになると思われる。

以上の結果から、A県内大学生及び専門学校生の喫煙状況には、学童期から喫煙に関する実態があることが明らかになった。第1に、喫煙頻度や1日の喫煙本数が増すほど低年齢からたばこを吸い始めて、喫煙が習慣化していること、第2に、喫煙頻度や1日の喫煙本数が増すほどたばこに多く触れる環境で生育していること、第3には、成長発達に伴う興味や好奇心などが絡んで喫煙行動につながっていることである。さらに、現在喫煙をしている学生の半数以上が、たばこをやめようと思ったことがあるにもかかわらず、その機会をつかんで禁煙につながっていないことが第4の実態としてあげられる。そして最後に、たばこに関する教育が行われているにもかかわらず、すべての学生に正しい知識が身につけていないことが伺われることである。これらの実態を踏まえ、以下、A県内大学生・専門学校生の喫煙に関する対策についての考察を行う。

## 2. A県内大学生・専門学校生の喫煙に関する対策

### 1) 喫煙防止対策

小学校高学年以降より児童の喫煙が急増することや、周囲の人の喫煙行動や将来の自分の喫煙の意思が喫煙行

動に関与していることが指摘されていることから、1990年代より喫煙防止教育として、知識の提供だけではなく、喫煙開始に関わる要因の影響について対処するためのスキルの形成にも焦点を当てて行われている（喫煙と健康問題に関する検討会、2002；北山、2005；西岡、2005）。未成年者の喫煙防止教育が行われている背景には、喫煙は、循環器や呼吸器をはじめとする全身の臓器に影響を与えるが、未成年者ではその影響が強く現れやすく、虚血性心疾患やがんなどにより死亡する危険性が増すことや、短期間でニコチン依存が形成されやすく禁煙が困難となることが指摘されている。また、習慣的に喫煙している未成年者は、血中一酸化炭素濃度が著しく高く、軽度の酸欠状態にあるため身体的・知的活動能力が低下し、成長発達に悪影響を受けているといわれている（加治、2002；藁輪眞澄、尾崎、2005）。A県内大学生及び専門学校生の喫煙の実態調査の結果、喫煙頻度が高いほど、喫煙本数が多いほど、小学生・中学生の頃から喫煙を開始し、高校生の頃には習慣化している現状が明らかになったことから、初等教育の初期或いは幼児期から、たばこの有害性についての教育を充実させなければならないことが示唆される。未成年者の喫煙には健康被害が多いことから、特に、たばこが健康や成長発達にもたらす影響などの知識の習得や、健康的な生活習慣の身につけていくことの意識付けなどの喫煙防止教育が望ましいと思われる。

調査結果では、喫煙のきっかけとして最も多い回答が「友人・先輩にすすめられて」であった。喫煙行動の形成には、友人の喫煙行動や態度が関連すると言われている（喫煙と健康問題に関する検討会、2002）。喫煙開始時期として最も多い回答があった中学生の頃の成長発達の特徴には、家族関係から家族以外の人間との出会いと連帯感を深めていくことがあげられ（青木、2004）、友人との関係性の中で喫煙を断れなかったり、友人との仲間意識が強く働きたばこを吸ってしまうことが考えられる。現在、喫煙防止教育として、友人からの喫煙の勧めに対する対処スキルの学習が学校教育の中で行われているが（西岡、2005）、さらに効果的に教育していくためにはその対処スキルの学習プログラムの評価及び検討を加えていく必要がある。

また、たばこを吸ったきっかけに、興味があったことやただなんとなくのように、気軽な気持ちから喫煙を開始していることが調査結果から伺えた。その背景には、喫煙頻度や1日の喫煙本数が増す学生ほど、家族構成員が喫煙している割合が高いという結果から、幼少期からたばこや喫煙行動に触れる機会が多い環境で生育していることが、喫煙に興味や関心を持ちやすくしていると考えられる。喫煙を防止するためには、教育場に限らず、

両親らを含めた家庭の場においても、たばこの害や健康被害について教育を充実させる必要があると思われる。尾崎（2005）も、親の喫煙が、未成年者の喫煙開始の危険因子であり、さらに、親の吸うたばこが未成年者の吸うたばこの供給源になっていると述べ、未成年者を取り巻く親の責任の大きさを指摘している。以上のことから、喫煙防止教育を行うに当たっては、家族、特に両親の理解と協力も必要であり、家族を巻き込んだ教育が行われることが望ましいと考える。

たばこを吸うきっかけの一つに、ストレス解消のためという理由があげられていた。たばこを吸い始めた時期の回答で最も多かった中学生という時期は、児童と成人の中間の時期で、子どもから大人への身体的・心理的・社会文化的発達段階にあり、特に心理的には反抗的で衝動的傾向が強いため不安定で動揺しやすいといわれている（岡部、2001）。何かしらのストレスを解消するためにたばこを吸うことは、一時的にはそのストレスが解消されたように感じるのかも知れない。しかしながら、本来のストレスに対する問題解決は図られていないので、結局、問題が持ち上がりストレスが加わるたびに喫煙行動へと繰り返しつなげてしまうと考えられる。学習や受験、人間関係など、さまざまな問題がストレスの原因と考えられるが、それらストレスにどのように対処していくのかを、生徒自ら適切に対処し、解決に導いていけるような力を身につけていくことが必要と思われる。加えて、未成年者の喫煙に影響を与えている要因の一つに、親に悩みを相談しないことがあげられている（尾崎、2005）。心理的に不安定で動揺しやすい時期であるからこそ、生徒を取り巻く家族をはじめとする周囲の大人が、生徒らを見守り、普段から積極的に会話する努力をし、問題への対処や解決に向けた支援をしていくことが必要と思われる。

## 2) 禁煙対策

A県内大学生及び専門学校生において、現在も喫煙をしている人のおよそ半数以上が、たばこをやめようと思ったことがあるにもかかわらず、それが禁煙行動につながっていないことが明らかになった。このことは、現在喫煙をしている人でも、たばこをやめる機会さえあれば、たばこをやめることができることを示唆している。また、禁煙頻度が低いほどたばこをやめようと思った人や禁煙を希望する人が少ないことから、いつでもやめようと思ったときに、自分でたばこをやめることができるという考えを持っていると考えられる。禁煙をしようと思ったときに、途中で挫折することなく禁煙することができるように、禁煙がもたらす効果、未成年者の禁煙の難しさ、具体的な禁煙方法、禁煙の支援体制など、禁煙

に関しての知識の提供が必要だと思われる。

また、現在もたばこを吸っているA県内大学生・専門学校生のうち、喫煙が習慣化した時期が小中高校生と答えたのがおよそ64%であったことから、未成年者のうちから常習的に喫煙をしていたと思われる。未成年者の禁煙の問題には、喫煙が周囲の大人に知られることでの叱責や処罰を恐れるために、親や学校教師らにたばこをやめたいという思いを相談しにくい環境があると思われる。北山(2005)は、実効性のある喫煙防止教育の一つに、たばこのやめ方の指導の必要性をあげ、未成年者の中に喫煙者がいる事実を受けとめた上で、喫煙を病気と認め、その病気とのつきあい方を指導していくことが、現実的なニーズだと述べている。つまり、未成年者の中に常習的に喫煙しているものがあるという事実立ち、未成年者の禁煙対策として、未成年者のたばこをやめようという意思やサインを見逃さないための環境を整え、適切な禁煙指導や支援体制を整えていくことが必要だといえる。そして、たばこをやめようという未成年者の意志を尊重し、それを未成年者自身によって達成し得るような視点での対応・対策が望まれる。

### 3) 受動喫煙対策

厚生労働省は、健康日本21でのたばこ対策の具体的な目標として、公共の場や職場での分煙の徹底をあげている(厚生統計協会, 2007)。A県内の大学生及び専門学校生で現在もたばこを吸っている人の一部は、受動喫煙について、周りの迷惑になっていることや、非喫煙者の健康被害が喫煙者よりも大きいことをおおよそ理解しており、そのため周囲の人に申し訳ないという気持ちを持っていた。その考えを具体的な行動として、分煙や喫煙場所を守って喫煙を行っていたことが、この調査により明らかになった。喫煙マナーについても一部の学生は意識していたことから、受動喫煙の害を防止するために、学校施設内にとどまらず、公共施設、娯楽施設、飲食店など、地域全体に分煙対策を徹底して行い、受動喫煙による健康被害を最小限に止めることの必要性が示唆される。

調査の結果では、ほとんど毎日喫煙している人の平均年齢が20.2 ± 2.40歳であったが、実際に喫煙が習慣化した時期が中学生、高校生であることから、未成年者のうちから常習的に喫煙をしていたと推測できる。自らが喫煙することでの自分への健康被害についての知識と共に、受動喫煙による第三者(身近な家族や友人など)が被る健康被害についての知識や理解を促していくことが必要だと思われる。実際に少数ではあったが、受動喫煙がわからない、仕方がないというような意見もあったということは、受動喫煙についての知識や意識が周知徹底されていないことが伺える。

喫煙については、未成年者喫煙禁止法が制定されていることから、未成年者の喫煙を未然に防ぐ必要がある。たばこがもたらす自分への健康被害、受動喫煙による周りの人への健康被害や、たばこによってもたらされる医療費やゴミ、火災などの社会的な問題を考えて、自ら喫煙を踏みとどまれるような喫煙防止教育が必要といえよう。

### 結論

本研究は、A県内大学生・専門学校生における喫煙防止対策の示唆を得るために、これら学生の喫煙状況についての実態調査を行った。その結果、以下について明らかになった。

- 1) A県内大学生・専門学校生の女性の喫煙率は、全国調査と比較し若干上回っていた。
- 2) 現在もたばこを吸っている人のおよそ87%が、ほとんど毎日喫煙をしていた。
- 3) 1日の喫煙本数は、女性に比べ男性の喫煙本数が多い傾向にあった。
- 4) A県内大学生・専門学校生において、ほとんど毎日喫煙している人ほど効果的な禁煙方法による指導を希望していた。しかしながら、禁煙指導を希望しないA県内大学生・専門学校生において、喫煙頻度が低く1日の喫煙本数が少ないほど、自分でたばこをやめられると考えており、喫煙頻度が高く1日の喫煙本数が多いほど、たばこをやめる気がないと考えている傾向にあった。
- 5) ほとんど毎日喫煙している人の8人に一人が学童期からたばこを吸い始め、1日の喫煙本数が多いほど、はじめてたばこを吸う時期が早い傾向にあった。
- 6) 喫煙頻度及び1日の喫煙本数が多いほど、家族構成員が喫煙している割合が高い傾向にあることから、身近な人物の喫煙行動に多く触れる機会にあった。
- 7) 喫煙頻度及び喫煙本数が多いほど、中学生の頃に喫煙が習慣化している傾向にあった。
- 8) 喫煙への好奇心や友人との関係性が喫煙行動につながる傾向にあった。

### 謝辞

本研究は、喫煙防止及び飲酒対策事業推進を目的とし、青森県健康福祉部保健衛生課より委託を受けて行った「平成20年度青年層の喫煙・飲酒実態調査報告書」の一部を加筆修正したものである。研究を行うに際し、青森県健康福祉部保健衛生課より、調査結果の使用および研究結果の公表についての許可を得て行った。青森県健康福祉部保健衛生課の関係者の皆様、調査にご協力いただきました皆様に深謝いたします。

[受理日：平成21年11月30日]

## 引用文献

- ・ 青木きよ子 (2004), 第1部成人期にある人の理解 第2章成人発達の特徴, 安酸史子, 鈴木純恵, 吉田澄恵 (編者), ナーシング・グラフィカ 22 成人看護学-成人看護概論, (第1版, 12-40), メディカ出版
- ・ 青森県健康福祉部保健衛生課 (2007), 健康増進計画 21世紀における県民健康づくり運動「健康あおもり 21」改訂版~中間評価と今後の取り組み~, 1-77
- ・ 青森県健康福祉部保健衛生課 (2008), 公立小・中・高等学校における児童生徒の喫煙・飲酒状況調査結果報告書 (速報), 1-27
- ・ 加治正行 (2002), 児童生徒への喫煙防止指導, 小児内科, 34 (8), 1296-1300
- ・ 北山敏和 (2005), 未喫煙防止活動を学校で広げるためにはどんな問題を克服すべきか, J.Natl.Inst. Public Health, 54 (4), 326-329
- ・ 喫煙と健康問題に関する検討会 (2002), 新版 喫煙と健康 喫煙と健康問題に関する検討会報告書, 保健同人社
- ・ 厚生統計協会 (2007), 第3編保健と医療の動向 第1章健康増進と生活習慣病対策, 国民衛生の動向・厚生生の指標 臨時増刊, 54 (9), 78-92
- ・ 袁輪眞澄, 尾崎米厚 (2005), 若年における喫煙開始がもたらす影響, J.Natl.Inst.Public Health, 54 (4), 262-277
- ・ 西岡伸紀 (2005), 未成年者への喫煙防止教育プログラム-教育内容と学習方法, および評価-, J.Natl. Inst.Public Health, 54 (4), 319-325
- ・ 岡部聡子 (2001), 2成人期にあたる成長・発達 (加齢), 山崎智子 (監修), 明解看護学双書5成人看護学, (第1版, p17-26), 金芳堂
- ・ 尾崎米厚 (2005), 青少年の喫煙行動, 関連要因, および対策, J.Natl.Inst.Public Health, 54 (4), 284-289
- ・ 厚生労働省ホームページ, 平成19年国民健康・栄養調査結果の概要, <http://www.mhlw.go.jp/>
- ・ 厚生労働省の最新たばこ情報ホームページ, <http://www.health-net.or.jp/tabacco/>
- ・ 日本たばこ産業ホームページ, News Release 2008.10.23, <http://www.jtc.co.jp/>
- ・ WAM NET ホームページ, 平成17年度たばこ・アルコール対策担当者講習会資料 講演資料2 未成年者の喫煙及び飲酒行動について, <http://www.wam.go.jp/>
- ・ WHO ホームページ, [http://www.who.int/tabacco/statistics/tabacco\\_atlas/en/](http://www.who.int/tabacco/statistics/tabacco_atlas/en/)

資料 1 青年層の喫煙・飲酒実態調査の内容 (喫煙の質問項目のみ添付)

喫煙・飲酒に関するアンケート調査

該当する部分を○で囲み、カッコに数字を記入してください。

- ・アンケート記入月日：            月            日
- ・学年： 大学 ・ 専門学校 (            ) 年生
- ・年齢： (            ) 歳
- ・性別： 男性 ・ 女性

<喫煙について>

質問 1. あなたはたばこを吸ったことがありますか。

- 1 現在も吸っている → 質問 2 から質問 17 まで
- 2 以前吸ったことがあるが、今はやめている → 質問 7 から質問 17 まで  
(1 本でも吸ったことがある場合も含まれます)
- 3 吸ったことがない → 質問 12 から質問 17 まで

質問 2. 現在もたばこを吸っている方にお聞きします。どのくらいの頻度で吸っていますか？

- 1 ほとんど毎日                    2 週に 1～3 日
- 3 月に 1～3 日                    4 その他 (                    )

質問 3. 毎日吸う人は一日何本くらい吸いますか？

- 1 4 本以下                    2 5～10 本
- 3 11～20 本                    4 21 本以上

質問 4. 現在たばこを吸っている理由はどんなことですか？該当する項目すべてを選んでください。

- 1 やめられないから                    2 ストレス解消のため
- 3 落ち着くから                    4 やめると太るから
- 5 周囲の友人が吸っているから                    6 眠気さまし
- 7 気分のメリハリ                    8 なんとなく
- 9 かっこよく見えるから
- 10 その他 (                    )

質問 5. 今までにたばこをやめようと思ったことはありますか？

- 1 ある                    2 ない

質問 6. 効果的な禁煙方法があったら指導を受けたいですか？

- 1 はい
- 2 いいえ (理由：                    )

質問 7. あなたが始めてたばこを吸ったのはいつですか？あてはまる番号を選んで、カッコに数字を記入してください。

- 1 小学校入学前                    2 小学 (                    ) 年生
- 3 中学 (                    ) 年生                    4 高校生 (                    ) 歳
- 5 大学 (                    ) 歳                    6 専門学校 (                    ) 歳
- 7 予備校生 (                    ) 歳                    8 社会人： (                    ) 歳
- 9 その他 (                    ) :                    歳

質問 8. あなたが始めてたばこを吸った時、家族の中で喫煙する人はいましたか？該当する人すべてを選んでください。

- 1 父                    2 母                    3 姉                    4 兄                    5 妹                    6 弟
- 7 祖父                    8 祖母                    9 その他 (                    )

資料1 青年層の喫煙・飲酒実態調査の内容 (喫煙の質問項目のみ添付)

質問9. 喫煙が習慣化したのはいつ頃ですか？

- 1 小学 ( ) 年生ころ      2 中学 ( ) 年生ころ  
3 中学卒業後 ( ) 歳ころ

質問10. たばこを吸うきっかけはどのようなことでしたか？該当する内容をすべて選んでください。

- 1 興味があったから      2 友人・先輩にすすめられて  
3 かっこよく見えたから      4 大人になった気分になれるから  
5 家族にすすめられて      6 ただなんとなく  
7 その他 ( )

質問11. 質問1「以前吸ったことがあるが、今はやめている」とお答えの方のみ回答ください。たばこをやめた理由はどんなことですか？該当するものすべてを選んでください。

- 1 身体に悪いから      2 たばこを吸う場所がないから  
3 周囲の人にやめるよう言われたから      4 お金がかかるから  
5 美容に悪いから      6 その他 ( )

質問12. 喫煙についてどう思いますか？あてはまるものを1つ選んでください。

- 1 嗜好品だから本人の自由      2 他人の迷惑にならないように吸うのは構わない  
3 体に悪いのでやめた方がよい      4 わからない  
5 その他 ( )

質問13. 以下の病気はたばこの影響をうけると言われていますが、その中で最も影響があるとあなたが考えるものを5つ選んでください。

- 1 皮膚の老化      2 歯周病      3 胃潰瘍      4 狭心症      5 脳出血  
6 肺がん      7 喉頭がん      8 未熟児出生 (母体の喫煙による影響)  
9 慢性気管支炎      10 乳がん

質問14. あなたの学校では、喫煙ができますか？

- 1 喫煙できない (敷地内禁煙 建物内禁煙)  
2 喫煙できるが、喫煙場所が決まっている  
3 どこでも喫煙できる

質問15. あなたの学校の喫煙対策についてどのように感じていますか？

- 1 このままでよい      2 敷地内前面禁煙にしてほしい  
3 建物内禁煙にしてほしい      4 喫煙場所を設けてほしい  
5 どこでも喫煙できるようにしてほしい      6 その他 ( )

質問16. あなたが禁煙にした方がよいと感じる施設を選んでください。該当するものすべてを選んでください。

- 1 レストラン      2 居酒屋      3 ファーストフード      4 カラオケ  
5 美容院・理容院      6 公衆浴場      7 公共施設      8 タクシー  
9 遊技場 (パチンコ、ゲームセンターなど)      10 公園      11 路上  
12 その他 ( )

質問17. 受動喫煙に対して感じていることがありましたら、ご記入ください。

( )